

平成30年度 第4回三郷区地域協議会

次 第

日時：平成30年9月27日(木)午後6時30分～

会場：三郷地区公民館 集会室

1 開 会

2 議題等の確認

3 議題

(1) 自主的審議事項「三郷区の人口減少について」 (60分)

4 事務連絡

5 閉 会

- 1 日 時 平成 30 年 8 月 28 日 (火) 午後 6 時 30 分～午後 8 時 30 分
- 2 会 場 三郷地区公民館
- 3 講 師 上越市創造行政研究所 内海上席研究員、伊倉研究員
- 4 参加者 三郷区地域協議会委員 (9 名)

5 概 要

(1) 講話

※講師説明の部分は省略

【質疑応答】

- 統計では、天野原新田と本長者原と一緒にされている。できれば分けてほしいが、何か理由があるのか。(横尾委員)
 - 国勢調査のデータを基に作成した。30 年前の国勢調査は、天野原新田と本長者原と一緒に集計していた。今のデータは分けて出されているが、昔のデータと比べることができないため、分けずに一緒にした。(伊倉研究員)
- スライド 33 番「三郷区住所別の世帯構成② (2015)」の「その他」とは何か。(山口会長)
 - 「18 歳未満のいる世帯」と「65 歳以上のみの世帯」に該当しないもの。例えば、18 歳から 64 歳の人だけの世帯や、30 歳と 70 歳の世帯など。(内海上席研究員)
- 日本全体で見ると、少子化対策のための支出が国内総生産の 1%程度しかない。上越市の少子化対策に対する取組内容を参考に聞かせてほしい。(尾崎委員)
 - 本来なら福祉や健康づくりの担当が話すのが一番よいと思うが、説明する。
上越市では子どもがいる世帯に対して、例えば医療費を下げる、保育料を安くするなど、経済的な負担を下げることで、子どもがいても生活しやすいようにしている。例えば子どもが 2 人いる家庭に 3 人目ができたら、より経済的負担を軽くする。他には、上越市はしていないが、全国的には、結婚相談所の利用やお見合いパーティーに補助金を出している市町村もある。上越市も過去にお見合いのような企画をしていたが、あまり成果はなかったようだ。最近の若者は、無理にお見合いをすると逆に引いてしまうことが多い。自然な形で出会いの場を作れるとよいのだが。(内海上席研究員)

- 今後少子化対策で予定している取組はあるか。(尾崎委員)
- 基本的には今の流れを継続していくことになると思うが、これから来年度の予算を検討する時期になるため、その動きを注視してほしい。(内海上席研究員)
- 人口減少は40年も前から出ていた話。一住民として、そういったことを提言していきたい。(尾崎委員)

(2) 意見交換

2班に分かれて意見交換

A班：山口会長、保坂副会長、伊藤委員、加藤委員、横尾委員

B班：竹内副会長、尾崎委員、保坂真由美委員、山田委員

(3) 発表・まとめ

【各班の意見交換結果の発表】

- ・・・別紙「三郷区地域協議会委員研修に関する意見一覧」のとおり

【委員感想発表（発表順）】

- ・・・別紙「三郷区地域協議会委員研修に関する意見一覧」のとおり

【講師まとめ（内海上席研究員）】

- 地域協議会で昨年から議論されてきた内容を拝見したが、人口減少の問題が大き過ぎて漠然としているという意見と、「住宅地をどう作るか」、「空き家をどうするか」という具体的な意見の大きく二つがあった。私個人としては、その間を埋めるような形で考えていけばよいと思う。人口減少問題を考えるためには、まず三郷区にはどのような魅力があるか、どのような地域になればよいかを考える。そのためにどのような交流や定住が大事かを考える。それを考えると、そのための住宅地のあり方、空き家の使い方が見えてきて、具体的なテーマが見えてくる。
- A班は何も使わずに話し、B班は大洋紙を使って進めた。何も使わずに自由に話す方が慣れていて楽だと思う。発言を紙に書く、何かアイデアを出すというのは苦しいが、一つのことに向かって何かしようとする時には、その方がよい場合もある。これから議論を進めて行く時に、組み合わせて使ってほしい。将来の姿を紙に書いていくことを積み重ねていくと、段々よいものが見えてきて、アイデアが浮かんでくるだろう。また、そこに子どもたちも交えて老若男女の意見が入るとより魅力的なものになると思う。

三郷区地域協議会委員研修(H30.8.28 実施)に関する意見一覧

【A班】

1. 意見交換まとめ

(1) 講話を聞いた感想

- 人口減少問題については、今の時期から対策をしておかなくてはいけない。
- 人口減少問題が大き過ぎて、どうしたらよいか分からない。

(2) 今後の取組案

- 子どもを預けて仕事ができる施設があれば、若者も返ってくる。
- 上越市に戻って来た人に対する見返りが無い。戻って来るきっかけづくりが弱い。
- 三郷区に新たに入居してきた人から、どんな事情で来たのか、感想を聞いてみる。
- 市で人口減少問題を担当する部署を設ける。
- 東京の事務所で田舎暮らしのPRをする。
- 土地を宅地にする際の農振法の関係が面倒であるため、もう少し簡単になるとよい。

(3) 三郷区の魅力

- 消防団など、三郷は人のつながりが強い。
- ENJOY35、青年団の取組や、地域全体で盛り上げている運動会、夏祭り。
- 風水害や地滑りがなく、治安も良いため、安全安心な地域として売り出せる。
- 景色が良い。妙高山の眺めがとてもきれい。
- 生活圏内に病院やスーパーがある。
- 寒くて雪が積もることが欠点。また、三郷というより新潟の人はハングリー精神がないことも欠点

2. 委員感想（発表順）

- 周りを見つめながら、色々な面で私たちも意見を出し、行政の考えも聞きながら、こつこつと進んでいく以外ない。(横尾委員)
- 人口減少という問題が大き過ぎて、どう取り組んでよいか分からない状態だったが、皆さんと勉強させてもらった。(加藤委員)
- 三郷区の良いところをたくさん探したい。また、行政から知恵と力を借りて課題に取り組んでいけるとよい。(伊藤委員)
- 何度か似たような話をしてきたが、三郷の良さを実感している。私たちの中でできることを一つでも取り組むことができたらい。(保坂副会長)
- これで終わらず、また次回も色々な資料やまとめたものをもとに意見交換し、何か一つでも提案できるものがあればと思っている。(山口会長)

【B班】

1. 意見交換まとめ（今後の取組案について、方眼紙にまとめた内容）

(1) 農業

- 三郷区の農産物のブランド化
- 三郷区の農業を生かした農業者の人口増
- 人が集まる場所、農産物販売所等の開設
- 地質はよい。
- 小学校と共同で。
- 農業体験 [(2) 交流と共通]

(2) 交流

- 若い人たちが地域で行っていることに参加する。各地域で、違う地域に参加する。
- 三郷保育園、小学校で他にないような保育、学習に取り組む。
- 市外、県外大学等の地域交流による三郷区への定着
- 巡回バス（夏祭り）
- 定期的に集まれる場所を。
- 夏休み中の体験（竹馬づくり等）
- 農業体験 [(1) 農業と共通]
- 合宿場 [(3) 空き地、空き家と共通]

(3) 空き地、空き家

- 三郷区への転入を増やすため空き家活用
- 空き地を利用した企業の誘致
- 地域にある空き地の開発で人口増
- 合宿場 [(2) 交流と共通]
- 全地域に全部違う遊び場があればよいのでは。
- 外から来た海に行く人たちへ、テントではなく家を借りてもらう。

(4) PR

- 三郷地区は生活しやすい地区。環境が良く、病院、スーパーが近い。県外の人にPR
- 三郷区のPR紙の作成
- 歴史

(5) 交通

- 上越妙高駅までの交通網の整備

(6) 少子化

- 子どもを増やす対策として三郷区だけの特別補助を考える。
- 婚活の実施

(7) その他

- 三郷区各町内の魅力を探してみる。

2. 委員感想（発表順）

- この地区は生活にとっても便利な地区。病院やスーパーなどがあり、生活環境が整った暮らしやすい地区。それをPRした方がよい。また、これから高齢者が増えてくるが、これからの課題を皆さんと話していきたい。(山田委員)
- もっと地区の魅力を発信し、お年寄りも活気づいて、地域を盛り上げたい。お年寄りが若者と一緒になって活躍できるような地域になればよい。(保坂真由美委員)
- 女性が働きながら子どもを産める環境、三郷区ならではの環境を整えられたらよい。そうすれば、人口も増えて少子化対策につながる。(尾崎委員)
- 具体案は出るが、実施できるまでのハードルが高い。しかし、検討を重ねていくと細かい案が出てくる。一つでも実現できるよう、身近なところから対策をしていかなければならない。また、国分寺の関係で色々出てくれば、三郷のPRにつながる。(竹内副会長)

講話資料より抜粋

三郷区の状況から考えられること

- 三郷区の状況は・・・
 - ・ 人口のピークは戦後まもなくの約2,000人で、ここ30年くらいは横ばい。
 - ・ 人口の変化は他の地区よりはまし？
- ↑↓
- ・ 三郷区の中でも、桜町は人口増が続き、若年人口も多いが、その他の町内は一部を除き人口減少と高齢化が進む。
 - ・ 人口流入もほとんどは市内からであり、市内の人口が減れば桜町を含め、三郷区の人口減少幅も大きくなる可能性大。
 - ・ これから区全体の人口減少がはじまり、その後世帯数も減少に転ずる見込み。

38

人口減少時代の地域づくり

- 人口減少対策は時間がかかり、気づいたときには手遅れなことも
→比較的人口が安定している今のうちから地道な取組ができると、20～30年後に効果が出るかも
- 上越市全体の人口減少が課題となっている中で、パイの奪い合いを続けると、上越市自体の存続が危ぶまれる
→三郷区のためにもなり、上越市全体のためにもなる取組とは？（市内でここにしかない、市外の人が魅力を感じるもの）
- 住宅団地や工業誘致だけでは効かない時代
→魅力的な地域、将来への希望が感じられる地域に人は集まる
- 定住人口だけではない大切な要素
→地域に愛着と誇りを持ち、いきいきと暮らす人々の数
三郷区のことを（住んでいなくても）気にかけてくれる人々の数

39

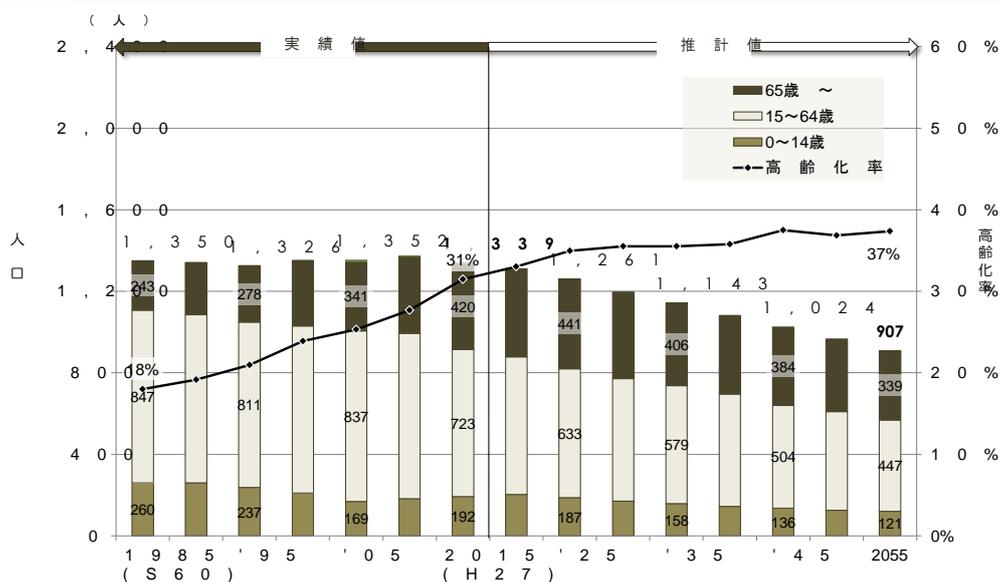
魅力的な地域づくりとは？（一例）

街、里、山それぞれの魅力がある。すでにある魅力に磨きをかけるのが王道。

- ① 地域の明るい雰囲気づくり
子育てしやすく、地域への愛着と誇りが育まれ、高齢者がいきいき暮らせる 一石〇鳥の取組み
- ② 心に訴えかける美しい景観づくり
田園、山、川、住宅など
- ③ 地域内外の交流づくり
農業体験や異文化交流など
- ④ ①～③の結果として
どんな住宅地があると良いか・空き家をどう活用するかも見えてくる
小さな雇用の場も生まれる、未婚者の出会いも自ずと生まれる
- ⑤ ということ、老若男女で話し合っ将来像を共有し、
協力できる地域は強い
コンパクトな地域であることは有利な条件

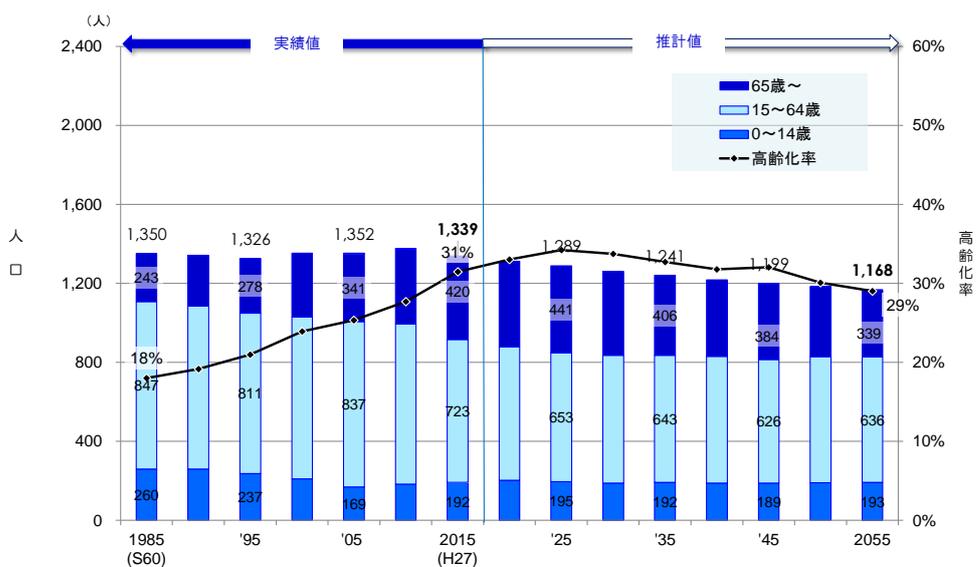
40

三郷区の将来推計人口①（このままいくと）



仮に最近の傾向が続けば、今後は急速に人口が減少していく。

三郷区の将来推計人口②（安定化シナリオ例）



20代~30代の夫婦やその子どもが毎年5人ずつ更に入ってくると、年齢構成のバランス維持